
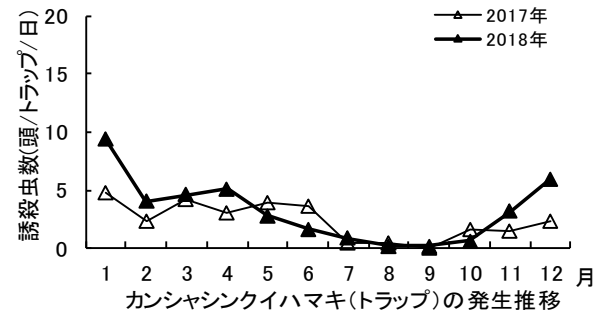
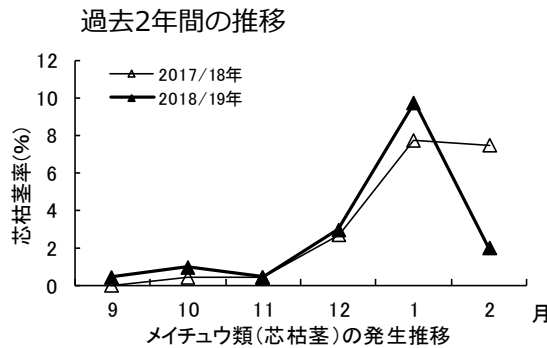
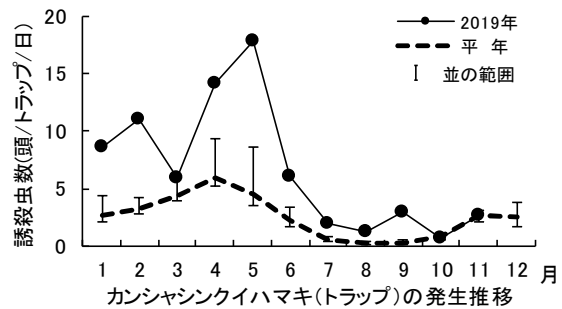
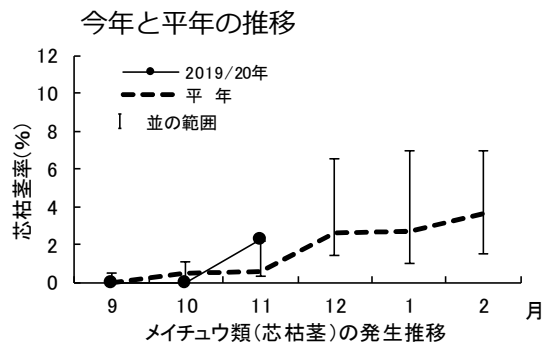


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
	11 月からの増減傾向	↑	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↑) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	


調査結果



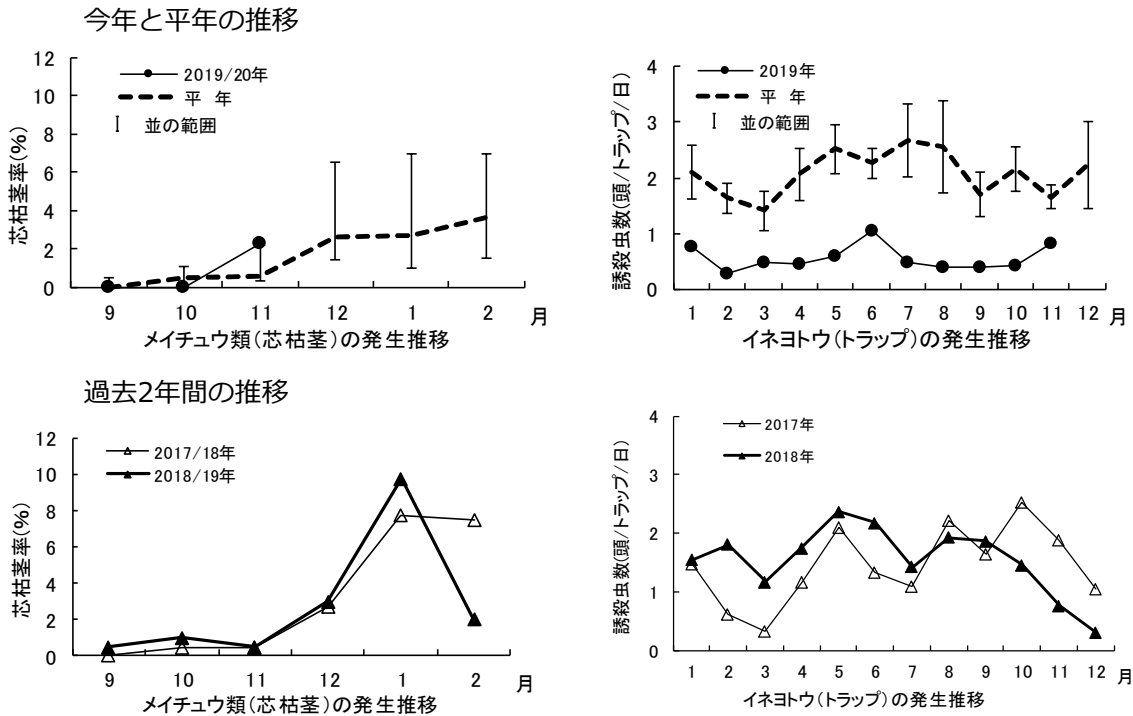
- ・ 芯枯れ発生ほ場率：81.3% (平年：78.1%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (13頭) のうち、7頭 (54%) がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類)：多発生 (波照間島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
	11 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：81.3% (平年：78.1%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (13頭) のうち、6頭 (46%) がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類)：多発生 (波照間島)

防除のポイント

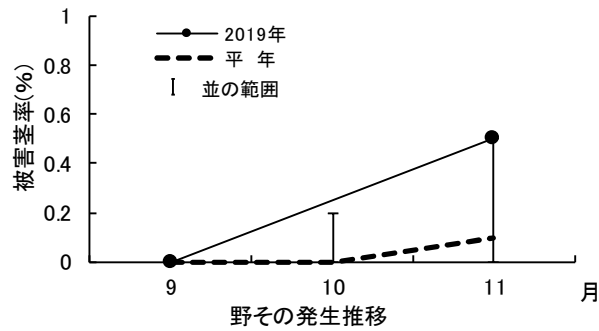
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ 野そ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	-	
	11 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		

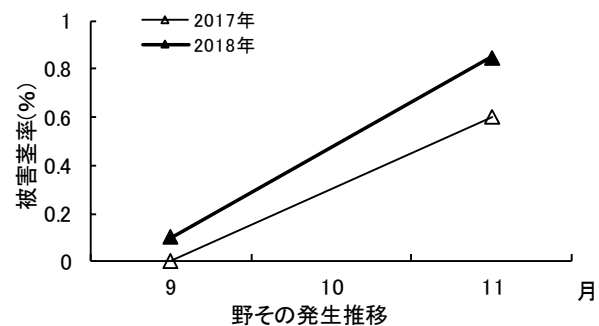


調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率 : 83.3% (平年 : 51.9%)
- ・病害虫防除員報告 (メイチュウ類) : 中発生 (波照間島)

防除のポイント

- ・管理されていない耕地などで繁殖するため、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・野積みされた剥葉残さなどに巣を作るため、野積みを行わない。
- ・被害は台風で倒伏した収穫前のほ場で多い。
- ・被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。



野そによる  
茎の食害